

令和元年度事業報告



—光のあたりにくい人々とともに歩む—

社会福祉
法人

ロザリオの聖母会

I 事業の概要

1 概括

1-1 ロザリオの聖母会

前年度末に桑島理事長が退任。今年度、石毛理事長が就任し、新たな体制下で法人運営を開始した。また、5月1日より平成から令和に改元され、新しい時代を迎えた。

11月にはローマ・カトリック教会の最高指導者である教皇フランシスコが来日し、日本から世界に向けて核廃絶、地球温暖化問題等のメッセージを投げかけた。

評議員会、理事会、監事監査、会計監査人監査が規程どおりに開催、執行された。併せて、日常的業務執行の協議機関としての毎週の法人運営会議、毎月の施設長会議や各施設の経営会議を通じて組織を統治した。年度末の開催については新型コロナウイルス感染対策のため書面による対応となった。

会計監査人による会計監査が実施され、その際の専門家による問題点の指摘と改善により、更なる財務規律の確立や内部統制の充実に役立てた。運営において年度末の開催については同じく書面による対応となった。

利用者の高齢化、重度化が進み医療的ケアを必要とする方が増えた。施設・事業所ごとに改善努力をしたが、利用者の増減が施設・事業所により顕著になった。コスト面においては法人全体でスケールメリットを生かした契約や購入の見直しを実施した。働き方改革に対応した魅力ある職場づくりプロジェクトを検討した。

求人難は継続しており職員数は前年3月末比で12人（前々3月末比で25人）減少している。台風や感染症の影響も加わり現場職員の負担は強く、職員配置加算等による経済的な施設運営にも影響を及ぼした。また、新型コロナウイルスの影響により、求人活動ができなくなったためWEB対応により実施した。

下半期においては台風による被害や新型コロナウイルスの感染拡大による制限と対応に追われた。台風15号による被害は大きく、建物破損、長期停電による生活制限に苦慮した。また、次年度に向け国庫補助による非常発電設備整備（3事業所）を進めた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響も大きく、利用者への支援の制限やその中での運営を余儀なくされた。先の見通しがつきにくい中、「感染しない、感染させない、広げない」を柱として、大規模法人として命と健康を守るためにリスク回避の対応を行った。また、次年度以降も長期に渡る対応が求められ、今後の運営の在り方が変わるため、新たなステップへの舵取りが必要になった。

1-2 施設・事業所

経営会議での協議・報告事項等を列記して報告とする。

①海上寮療養所

- 台風15号被害（停電、エアコン設備、建物、渡り廊下等）
- 台風19号被害発生（停電、建物）
- 新型コロナウイルス感染症対策（各所消毒、研修、3密防止対策等）
- 海の星病棟ベット8台設置（ILBS国際福祉協会より寄附）
- 医事コンピュータ更新（電子カルテ・レセプトコンピューター）

②ロザリオ訪問看護ステーション・ソフィア

- 前年度に比べ、利用者登録者数及び訪問件数共に減少。
- 精神症状悪化及び内科疾患により、入院となるケースが多々あった。
- 消費税10%の増税に伴い、訪問看護管理療養費の料金が引き上げとなった。
- 訪問看護管理療養費の料金引き上げに伴い、重要事項説明書の一部改定した。
- 職員が平均して研修会等に参加出来なかった。

③ワークセンター

- 印刷班の障害者優先調達法推進による依頼は、昨年度同様。法人外から注文増加。請負班は新規作業が予想以上の売上となり目標は達成できた。
- 居場所機能と働くことの生きがいの場。
- 情報共有した業務の遂行ができた。
- 塩害、台風の被害による対策を講じる必要性が生じた。
- 有給取得率は前年度より上がり、目標を達成ができた。

④聖母療育園

- 新型コロナウイルスの感染対策、対応を図った。
- 台風15号による2日間の停電に伴い自家発電装置へ切り替え対応した。
- 事務局担当のロザリオ福祉まつりが台風15号の影響により、2年続けての中止となる。
- 協会認定重症心身障害看護師 関東・中部地方重症心身障害看護師研修会の事務局として、準備を進め開講に繋げた。
- インフルエンザ蔓延に対する感染対策として、7、8号室の居室の内扉を設置した。

⑤聖母通園センター

- 利用者に関して3名の新規契約、8月に1名契約終了となった。
- 第三者評価受審し、日頃の介護や書類作成の面で参考になった。
- 千葉県重症心身障害日中活動支援協議会幹事施設として、当センターにおいて第21回目の協議会を開催した。
- 聖母療育園よりベッド2台移管、有効利用できた。
- 安全の為、エレベーターの停電時自動着床バッテリーを交換した。

⑥ロザリオ発達支援センター

- 地震対策として園庭ブロック塀撤去、フェンス及び門扉の設置工事实施。
- ふたばクラブ定員変更（令和元年8月（10→15名）、令和2年2月（15→10名）
- ふたば保育園の利用登録数減少に伴う運営体制の見直し。
- ふたば保育園・ふたばクラブ第三者評価を実施。

○新型コロナウイルスの影響により、ふたばクラブで日中受入開始。相談は原則、電話相談対応。会議等の中止。

⑦旭市こども発達センター

- 地域のニーズを受け止め、個々の発達期における適切な療育を提供。
- 児童の最善の利益を常に尊重した支援を実施。
- 保護者のサポート（寄り添い話を聞く支援・家庭で使える支援）に力を注いだ
- 次世代のリーダー（後任者）の育成。
- 計画的な研修参加による能力の開発・育成。

⑧聖マリア園

- 入所利用が平均49名。生活介護利用率87.2%。入退所は、新規2名、退所3名は原疾患による死亡である
- 利用者の主体性を尊重し、業務改善を重ねた。
- 災害マニュアルの見直し、防災訓練を実施。非常用自家発電装置の補助金申請
- 専門性向上のための内外の研修会に参加、
- ボランティア、職場体験等を受入れ、福祉の仕事の魅力を伝えた。

⑨聖家族園

- 利用者が充実した園生活を送るため、行事や個別外出を積極的に実施。
- 班活動からグループ活動への業務の見直しを実施
- インフルエンザの流行による集団感染
- 地域のレスパイト機能として、緊急ショートステイ受入実施
- 排せつしやすい環境整備、男性棟トイレ改修工事

⑩みんなの家

- 東総就業センターの統合
- 災害（台風・感染症）への対応及び対策マニュアルの見直し
- 売上向上に向けた取り組み（商品開発・販路の拡大）
- 就職希望者の生活支援のあり方について検討
- 消費税増税に向けての対応

⑪聖家族作業所

- 介護給付費は昨年度と同収入を維持（令和元年度：111,403,710円）
- 定員35名、年間平均利用率117.55%（平成30年度利用率：117.68%）
- 運営規程変更の申請（令和2年4月より定員40名）
- 第三者評価受審
- マイクロバス購入

⑫ナザレの家あさひ

- 高齢化や急な体調不良に伴い亡くなられた方が多かった。
- 台風に新型コロナウイルス発生と災害の年であった。
- 事務所職員を3グループに分け、ICTを活用した業務改善を行った
- 中川ハウス、対馬ハウス改修工事。
- 10人乗り公用車購入。

⑬ロザリオ高齢者支援センター

- 利用者支援：ケアマネ4人体制、月あたり160名の在宅利用者支援を継続。

- 災害：台風 15 号、19 号における風水害、大規模停電発生。被災地支援活動（南房総市）以後、地域災害支援マニュアル改定、県内 7 市にて減災防災研修実施、等。
- 災害：新型コロナウイルス感染拡大（令和 2 年 1 月中旬以降～）
- 研究研修：全国大会（1 演題提出、発表）、法人合同研修会（1 演題提出、発表会中止）
- 安全対策：車両事故発生件数は 0 件、中廊下撤去工事。

⑭ロザリオ訪問介護事業所

- 令和元年 10 月より特定事業所加算が創設。
- 障害ヘルパー事業所指定「特定事業所Ⅱ」取得。
- 旭市出前講座を活用した各種研修受講。
- 求人広告の見直し、新規の常勤職員の募集を講じた。
- 新型コロナウイルス感染拡大との戦い、対処で大きく世の中が変革。

⑮デイサービスセンター・ローザ

- 8 月に管理者の変更、総括アドバイザー就任。
- 10 名の新規利用あるが、入院及び施設入所等 7 名の退所となった。
- 特浴機の故障により利用者には、迷惑を生じてしまった。
- 台風 15 号・新型コロナウイルスの影響による利用率低下。
- 運営規程変更、営業日時等サービス提供見直し、海上療養所と医療連携契約締結。

⑯佐原聖家族園

- 台風 15 号による大規模停電
- 利用者の死去
- 日中活動の見直し
- 業務改善
- 新型コロナウイルス

⑰聖ヨセフつどいの家

- 放課後等デイサービス事業及び生活介護事業の利用率の低下
- 新型コロナウイルスへの対策と利用者の体調管理
- 台風 15 号による、停電に伴う 5 日間の休業及び建物の雨漏り等被害
- 台風 19 号による体育館の一般避難所として使用
- 施設整備（プール整備・布製防火カーテン 2 階相談室設置・体育館屋根漏水修繕工事）

⑱ナザレの家かとり

- 台風 15 号、19 号による避難
- 利用者の死去
- 触法障害者の受け入れ
- NPO 法人への移管の中止
- 新型コロナウイルスに伴う職員の退職

⑲友の家

- 新型コロナウイルス感染予防として、各事業の活動自粛。
- 旭市と匝瑳市からの地域活動支援センター I 型事業を継続して委託。
- 職員の退職や異動に伴い、適宜各事業における体制の整備を行った。
- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業を通じて、ピアサポーターの有用性が利用者や精神科病院スタッフ等に認められ派遣回数が増加へ繋がった。
- 職員体制変更に伴い、新規計画相談の受け入れを再開。

⑳海匠ネットワーク

- 包括的支援体制整備に向けた総合相談窓口設置の働きかけ、地域共生社会の実現。
- 銚子サテライトを開始し、圏域内全ての対応取組む。
- 旭市における地域生活支援拠点の整備・地域自立支援協議部会再編
- グループホーム制度の普及と啓発。
- 地域住民が安心・安全に利用できる事業所作り。

㉑香取障害者支援センター

- 地域生活支援拠点等事業整備の取り組み
- 広域自立支援協議会の設置とプロジェクト委員会の発足
- 香取圏域グループホーム等連絡協議会の運営強化
- 基幹相談支援センター及び指定特定相談支援事業の運営安定化と業務改善
- 香取地区相談支援体制の確立

㉒香取就業センター

- 新採用職員着任や人事異動等による職員体制の変更
- 地域自立支援協議会における職場体験の取り組み
- 精神障害者等への職場定着支援推進事業の実施
- ピアサポート活動の実施
- ハローワーク佐原との連携

㉓本部

- 法人内後方支援と業務統括
- 定款の改正、規程の整備
- 会計監査人（公認会計士）による監査の対応
- 人財の確保
- 台風および新型コロナウイルスの対応

2 法人概要

2-1 法人所在地 千葉県旭市野中4017

2-2 法人設立年月日 昭和27年5月29日

2-3 沿革

- 1929 (昭和4)年 戸塚文卿神父が東京市外荏原にナザレトハウスを開設
- 1931 (昭和6)年 矢指村野中に小家屋新築、ナザレトハウス移転
- 1935 (昭和10)年 ナザレトハウスを増築し、病院組織に(海上寮・うなかみりょう)
- 1947 (昭和22)年 宗教法人「聖フランシスコ友の会」が日本医療団より海上寮買い戻し
- 1952 (昭和27)年 「社会福祉法人ロザリオの元后会」創設—小原ケイ理事長就任(5月29日)
- 1956 (昭和31)年 結核病院である海上寮療養所に精神神経科を併設
- 1971 (昭和46)年 結核病棟を廃止精神神経科の病院となる
- 1986 (昭和61)年 小原清成理事長就任(12月15日)
- 1988 (昭和63)年 重症心身障害児施設「聖母療育園」を開設
(現:医療型障害児入所施設・療養介護「聖母療育園」)
- 1989 (平成元年)年 法人名を「ロザリオの聖母会」に改称、法人事務局新設
- 1990 (平成2)年 第1回ロザリオ福祉まつり(聖母療育園父母の会バザー)開催
- 1991 (平成3)年 身体障害者療護施設「聖マリア園」を開設
(現:障害者支援施設「聖マリア園」)
- 1994 (平成6)年 知的障害者更生施設「聖家族園」を開設(現:障害者支援施設「聖家族園」)
- 1995 (平成7)年 精神障害者等の無認可作業所「ワークセンター」を開所
(現:就労継続支援B型事業所「ワークセンター」)
- 1997 (平成9)年 知的障害者通所授産施設「みんなの家」を開所
(現:障がい者の就労促進事業所「みんなの家」)
精神障害者グループホームの運営に着手
- 1998 (平成10)年 聖マリアデイサービスセンター開所(現:聖マリア園生活介護)
- 1999 (平成11)年 精神障害者地域生活支援センター「友の家」を開所
- 2000 (平成12)年 「聖母通園センター」で重症心身障害児者通園事業を開始
(現:生活介護等事業所)
- 2000 (平成12)年 居宅介護支援、訪問介護など老人福祉事業に着手
(現:ロザリオ高齢者支援センター、ロザリオ訪問介護事業所)
- 2001 (平成13)年 佐原市(現:香取市)に知的障害者更生施設「佐原聖家族園」を開設
(現:障害者支援施設「佐原聖家族園」)
- 2002 (平成14)年 地域生活支援センター「さわやかネット」を開所
(現:中核地域生活支援センター「海匠ネットワーク」)
知的障害者更生施設「聖家族作業所」(通所)を開所
(現:生活介護事業所「聖家族作業所」)
- 2003 (平成15)年 佐原聖家族園通所部「つどいの家」を開所
(現:多機能型事業所「佐原聖家族園つどいの家」)
- 2004 (平成16)年 香取ネットワークを開所(2009年4月他法人に移管)

- 2005 (平成 17) 年 和田ハツ江理事長就任 (2 月 23 日)
- 2006 (平成 18) 年 香取障害者支援センターを開所
 障害児デイサービス「ふたば保育園」を開所 (現：児童発達支援等事業所)
 平成 9 年から運営のグループホームを統括するグループホーム支援センター
 (現：ナザレの家あさひ) を開所 (現：16 か所)
 ケアホーム香取・グループホーム香取 (現：ナザレの家かとり) を開所
 (現：4 か所)
- 2007 (平成 19) 年 旭障害者支援センターを開所
 東総就業センターを匝瑳市に開所 (現：みんなの家併設)
- 2009 (平成 21) 年 細渕宗重理事長就任 (11 月 27 日)
- 2011 (平成 23) 年 海上寮に認知症訪問診療室を設置
 香取就業センターを多古町に開所
 デイサービスセンター・ローザを開所
 ロザリオ発達支援センターを開所
 桑島克子理事長就任 (6 月 8 日)
- 2012 (平成 24) 年 法人創立 60 周年 (5 月 29 日)、法人ロゴマーク制定 (10 月 22 日)
- 2013 (平成 25) 年 旭市こども発達センター開所 (旭市委託事業)
 旭障害者支援センターを友の家に統合
 高萩福祉センター開所 (聖ヨセフつどいの家・香取障害者支援センター・
 香取就業センター、7 月 1 日)
- 2015 (平成 27) 年 ロザリオ発達支援センター開所
 ロザリオ訪問看護ステーション・ソフィア開所 (10 月 1 日)
 障害者相談支援センター・みらい開所 (10 月 1 日)
 コミュニケーションセンターMado-ka (マドカ) プレオープン
- 2017 (平成 29) 年 法人創立 65 周年 (5 月 29 日)、ロザリオの聖母会の歌制定 (10 月 4 日)
- 2018 (平成 30) 年 海上寮療養所 3 病棟から 2 病棟へ変更 (4 月 1 日)
 みんなの家「就労定着支援」事業開始 (10 月 1 日)
 相談支援センターみらいを香取障害者支援センターに統合 (1 月 1 日)
- 2019 年 石毛敦理事長就任 (4 月 1 日)
 (平成 31 年/令和) 東総就業センターをみんなの家に統合 (4 月 1 日)

2-4 敷地面積 106,018.29㎡ (前年度105,942.38㎡)
約32,070.53坪

2-5 建物面積 30,214.30㎡ (前年度30,192.97㎡)
約9,139.83坪

2-6 施設・事業所数 22カ所 (前年度23カ所)

(1) 入所系事業所 5カ所 (前年度5カ所)

(2) 居住支援系事業所 2カ所 (グループホーム数25カ所、前年度25カ所)

(3) 通所・日中活動系事業所 8カ所 (前年度8カ所)

(4) 訪問・相談等地域生活支援系事業所 7カ所 (前年度8カ所)

2-7 利用者数 4,029人 (前年度3,936人)

(1) 入所・共同生活系事業所 414人 (前年度426人)

(2) 通所系事業所 454人 (前年度336人)

(3) 在宅・訪問系事業所 3,161人 (前年度3,174人)

2-8 職員数 573人 (前年度586人、前々年度599人)

(1) 常勤 359人 (前年度362人、前々年度354人)

(2) 非常勤 214人 (前年度224人、前々年度245人)

3 令和元年度の実施事業（令和2年3月31日現在の定款第1条に基づく事業）

3-1 事業内容

(1) 第1種社会福祉事業

- ア 医療型障害児入所施設（聖母療育園）
- イ 障害者支援施設（聖マリア園、聖家族園、佐原聖家族園）の設置経営

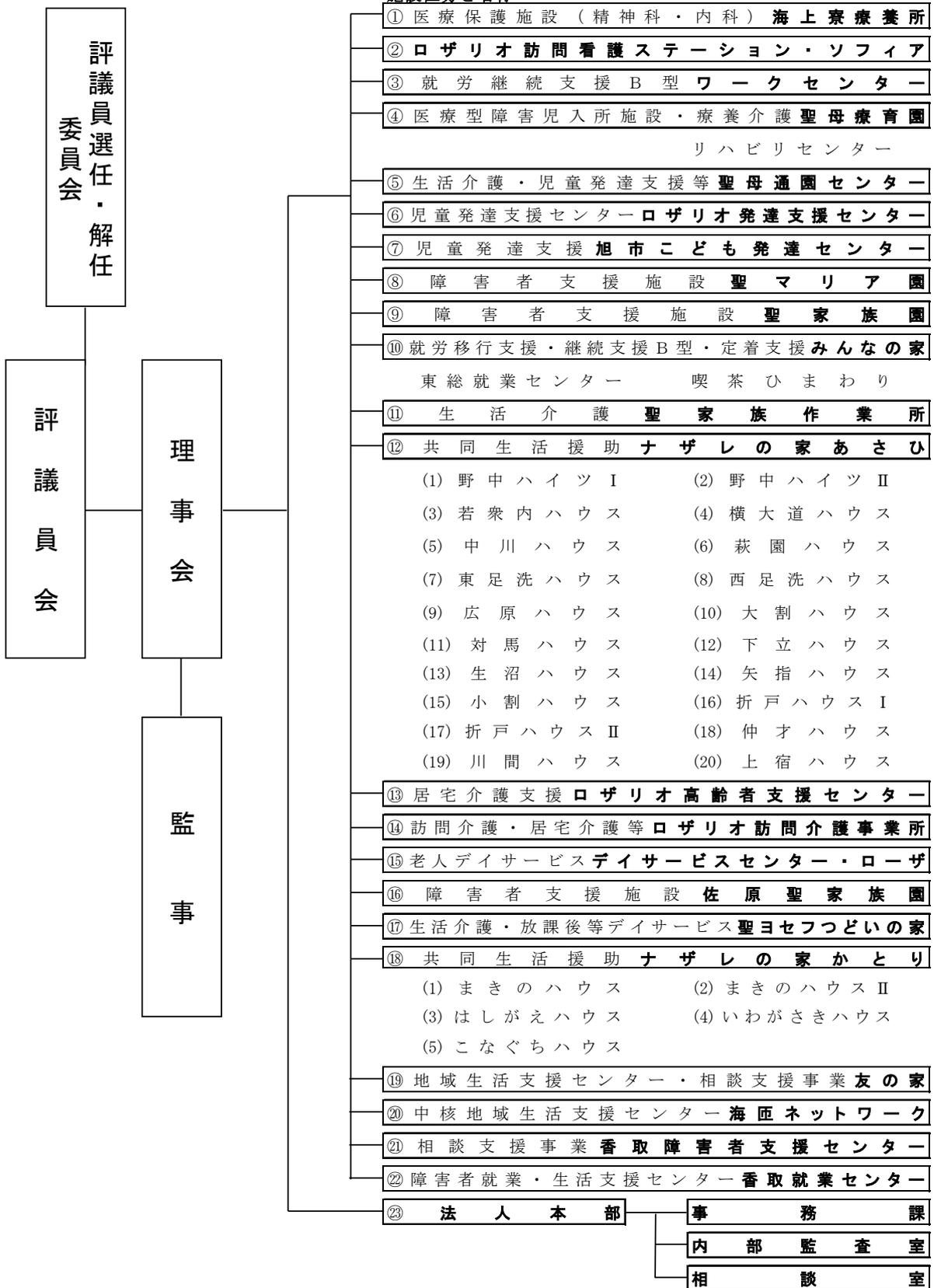
(2) 第2種社会福祉事業

- ア 医療保護施設 海上療養所の設置経営
- イ 障害児通所支援事業
 - a 児童発達支援（聖母通園センター、ロザリオ発達支援センター：ふたば保育園、聖ヨセフつどいの家）
 - b 放課後等デイサービス（聖母通園センター、ロザリオ発達支援センター：ふたばクラブ、聖ヨセフつどいの家）
 - c 保育所等訪問支援（ロザリオ発達支援センター）
- ウ 障害児相談支援事業（友の家、ロザリオ発達支援センター、香取障害者支援センター）
- エ 老人居宅介護等事業（ロザリオ訪問介護事業所）
- オ 老人デイサービス事業（デイサービスセンター・ローザ）
- カ 老人短期入所事業（聖マリア園）
- キ 障害福祉サービス事業
 - a 居宅介護（ロザリオ訪問介護事業所）
 - b 重度訪問介護（ロザリオ訪問介護事業所）
 - c 同行援護（ロザリオ訪問介護事業所）
 - d 行動援護（ロザリオ訪問介護事業所）
 - e 療養介護（聖母療育園）
 - f 生活介護（聖母通園センター、聖マリア園、聖家族園、聖家族作業所、佐原聖家族園、聖ヨセフつどいの家）
 - g 短期入所（聖母療育園、聖マリア園、聖家族園、佐原聖家族園）
 - h 就労移行支援（みんなの家）
 - i 就労継続支援B型（ワークセンター、みんなの家）
 - j 就労定着支援（みんなの家）
 - K 共同生活援助（ナザレの家あさひ、ナザレの家かとり）
 - l 相談支援（友の家、香取障害者支援センター）
- ク 地域生活支援事業
 - a 相談支援事業（友の家、香取障害者支援センター）
 - b 移動支援事業（ロザリオ訪問介護事業所）
 - c 地域活動支援センターI型（友の家）
 - d 日中一時支援事業（聖母療育園、聖母通園センター、聖マリア園、聖家族園、聖家族作業所、佐原聖家族園、聖ヨセフつどいの家）
 - e 基幹相談支援センター（海匝ネットワーク、香取障害者支援センター）
- ケ 中核地域生活支援センターの受託（海匝ネットワーク）
- コ 千葉県障害児等療育支援事業の受託（聖母療育園、ロザリオ発達支援センター、佐原聖家族園）
- サ 障害者虐待防止センターの受託（海匝ネットワーク、香取障害者支援センター）

(3) 公益事業

- ア 訪問看護事業（ロザリオ訪問看護ステーション・ソフィア）
- イ 居宅介護支援事業（ロザリオ高齢者支援センター）
- ウ 障害者就業・生活支援センター事業（雇用安定等事業）
（東総就業センター、香取就業センター）
- エ 一時保護事業
- オ 社会貢献活動（コミュニケーションセンターM a d o - k a、佐原駅前サロン）
- カ 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業
（友の家、香取障害者支援センター）
- キ 障害者就業・生活支援センター事業（生活支援等事業）
（東総就業センター、香取就業センター）
- ク 障害者雇用アドバイザー（企業支援員）事業の受託
（東総就業センター、香取就業センター）

3-2 組織



4 令和元年度重点目標実施報告

ロザリオの聖母会では、福祉・医療情勢や法人内の実情を踏まえて令和元年度に法人及び施設・事業所が取り組むべき課題を次のとおり重点目標として定めた。

また、設定した目標については、8月に見直しや進捗状況の確認を行うことを通じて現場や現実に立脚した着実な遂行を図るよう努力した。

以下、全体的な概要を記述することに留め、詳細に関しては本部や各施設・事業所の記述に譲りたい。

4-1 運営

ー福祉・医療の情勢や動向を注視しつつ施設・事業所の安定的運営に努めるー

(1) 諸情勢を踏まえた施設・事業所の課題と展望

法制度の動向や福祉・医療を取り巻く環境の変化等に対応するため、施設・事業所個々の課題を発見して将来を展望した。

①入所系

- 海上療養所では医師の退職や診療報酬の影響により平均患者数が目標を下回り厳しい運営状況になった。台風の影響による建物等への被害が大きかった。
- 聖母療育園では感染症対応を徹底した。医療ケアの必要な短期入所利用者や入所待機者も増えた。
- 聖マリア園では体調不良等による退所があり年間平均入所数は48床であった。台風による建物への影響があった。県指導監査による加算算定ミスの指摘あり。大規模修繕工事を行った。外国人雇用について2名の技能実習生求人票を提出した。
- 聖家族園では利用書の特性に沿った生活の見直しを実施し、事故やトラブルが減少した。男性トイレ改修工事を行った。
- 佐原聖家族園では長期短期入所者の入所を進めた。入所台風による長期停電の対応や新型コロナウイルスを持ち込まない対応を徹底した。

②通所系

- ワークセンターでは利用者の高齢化等により配慮が必要となった。台風による建物への影響があった。
- 聖母通園センターでは、利用者の体調変化により利用数の低下がみられた。また、次年度の向け看護師1名を採用することができた。
- ロザリオ発達支援センターではふたば保育園、ふたばクラブで医療的ケアの利用者が増えた。医療面で聖母療育園の協力を得た。ふたば保育園の定員変更を行った。
- 旭市こども発達センターでは利用者個々に沿った療育のための環境整備を行った。地域連携として利用児童の併用先保育所等への訪問、保育士見学実習を実施した。医療面で聖母療育園の協力を得た。
- みんなの家では東総就業センターを吸収し、一体的な運営を行った。消費税変更に伴う対応を行う。台風や新型コロナウイルスの影響による作業売り上げが減少した。
- 聖家族作業所では経営的に安定した一年であった。利用者増に伴い次年度定員変更について検討を行った。
- ローザでは管理者の交代があり、法人内の協力により事業再編を実施した。
- 聖ヨセフつどいの家では管理者の変更があった。台風による停電や被害、香取市の一般避難所開設等があり対応した。利用率は前年度を下回った。

③居住系

- ナザレの家あさひでは高齢化に伴う体調不良者や若い世代の方の看取り支援を行った。グループホーム数は20か所、定員91名。人材不足が続いた。外国人雇用について2名の技能実習生求人票を提出した。新型コロナウイルスの影響で日中サービス休止等から日中の支援も増えた。
- ナザレの家かとりでは人材確保に苦慮した。台風、新型コロナウイルスの影響により一時的に避難等を行った。

④訪問・相談系

- ソフィアでは管理者の変更があった。新規登録者数と訪問件数は前年より減少した。
- ロザリオ発達支援センターではふたば保育園利用者減による定員変更を行った。個別相談とともに保育園や幼稚園への巡回支援を行った第三者評価を受審した。
- ロザリオ高齢者支援センターではアウトリーチによる支援を生かしながら、地域福祉、高齢者支援機能の特徴を生かした連携を進めた。M a d o - k a 事業による地域づくりに積極的に参画した。
- ロザリオ訪問介護事業所で職員の高齢化と人材不足が続いた。フレックスタイム導入の検討を行った。新型コロナウイルスの影響により、感染予防を徹底し支援を行った。
- 友の家では職員体制の変更があった。県受託事業を通じてピアサポーターを地域の医療機関等への派遣調整を実施した。
- 海匠ネットワークでは地域共生社会を目指し、地域から求められる役割の変化に対応し、制度の狭間の方や生活困難な方々の支援や地域づくりとして包括的支援体制構築に向けて発信をした。
- 香取障害者支援センターでは地域生活拠点整備に向けて関係者と準備を行った。関連した香取圏域の広域会議設置準備も行った。台風の影響による法人内事業所への応援を行った。
- 香取就業センターでは管理者変更、新任職員の配置、異動があった、職員の指導・育成と事業運営の両立が難しい状況であったが職員協力により業務を遂行することができた。

(2) 人材の確保、定着、育成の推進

令和元年度新卒採用は15名を目標に設定して取り組んだが、既卒も含めて11名であり、昨年10名、一昨年13名であり、困難な状況は続いている。採用専担部門担当（法人本部事務長）を中心に「人材確保戦略」として、採用育成に関する推進チームを立ち上げた検討した。採用のための広報やホームページの変更について業者を利用し検討した。また、インターシッププログラムを作り、受入れを行った。新採用のフォローとして定期的な面接や新採用以外の職員についても適宜、面談を実施した。技能実習生の採用に向けて、2事業所より求人票を監理団体へ提出した。

施設・事業所横断的人事、及び施設組織図上必要な人事を適正かつ計画的に実施することを通じて軸になる職員の育成、登用を図った。このため、内部理事による法人運営会議においてその都度適時に人事問題を協議し、特に令和2年度に向けた人事に関しては令和2年1月下旬から集中的に検討を重ねた。

軸になる職員の育成については研修を実施した。また、新年度に向けて施設・事業所長推薦と全体的な平衡を考慮して中間管理職の登用を実行した。

(3) ガバナンスの確立

- ①理事、監事及び評議員が各人の職責を通じ、法人及び施設・事業所経営の検証や理事会・監事・評議員会の相互牽制を図る。
- ②法人及び施設・事業所経営が円滑に機能するよう、法人運営会議や経営会議等での議論を深め、業務執行理事など執行体制をより強化する。

(4) コンプライアンス（法令遵守）の徹底

施設・事業所においては今後10ケ年の修繕・固定資産購入計画を作成し、これに沿って補助金や自主財源により増改築、修繕工事、車両、医療福祉器具の更新等を実施すると共に、修繕引当金等積立の根拠を明確にして、将来の費用捻出に備えた。

- ①研修等に参加して施設・事業所が遵守すべき法令改正等の情報を入手する。
- ②職員に対して社会福祉諸法令、労働法令、虐待防止法等の適切な理解を促進し、社会的ルール遵守の重要性を周知徹底する。

(5) 堅確な財務規律と内部管理体制の確立

内部監査室による定期的な施設監査と会計監査人による監査を通じ財務情報の信頼性向上と業務の効率化に努めた。また財務情報や事業報告等もタイムリーにホームページやニュースレター等で公開し、本会の社会的及び地域貢献的な事業に理解を得るようにした。

4-2 利用者サービス

ー社会福祉法人に求められる課題を踏まえ利用者へのサービスの質向上に努めるー

(1) 虐待防止、権利擁護、差別解消に向けた取り組み

権利侵害や虐待行為に対するチェック機能を強めて防止策の徹底を図るとともに「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の理解を深める取り組みを推進した。

施設・事業所個々では関係研修会への参加を推進し、法人レベルでは秋の中間管理職育成研修と新職員研修で虐待問題を取り上げた。差別解消法に関しては行政から、その都度情報を入手した。

(2) 利用者の立場に立った福祉サービスの実施

施設・事業所において具体的な支援やサービス等利用計画案策定に係る利用者の意思決定を尊重し、本人の意思や希望に基づいた個別支援計画を継続したりするなどの具体的な取り組みが見られた。

施設・事業所に対しサービス提供のために必要と定められた事項すべてに渡って法令遵守を徹底するよう努めた。

サービスの質を下支えするために、30年4月、7月、11月の新採用職員研修において法人理念、倫理要綱、職員行動規範や福祉サービス共通基準の説明を行った。また、11月にはこれに基づき全職員が自己評価を行った。

(3) 福祉サービスの一層の充実を目指した生活環境・利用環境の向上

良質且つ安全・安心な利用者サービス提供のため、施設・設備の改築改善を年次計画に沿って着実に進捗させた。利用者・職員の双方の利便性、快適性を追求した設備機器の導入更新を行った。利用者のプライバシーが遵守できるように配慮した。

建物内の適切で衛生的な環境に配慮した。

4-3 安全対策

—法人の総合的な安全衛生対策の向上を図った—

(1) 防災・防犯対策の向上と交通事故防止対策

総合安全対策委員会の主導により、月次対策項目を挙げて法人全体で取り組み、また、被災時、緊急時の連絡手段としてメール送信訓練を行って非常時に備えた。3月には施設・事業所単位で作成したBCPマニュアルの見直しを実施した。今年度後半は台風被害、新型コロナウイルスの対応に追われた。

(2) 利用者等安全対策の向上

総合安全対策委員会の主導により月次対策の中で向上を図り、8月は「虐待防止」をテーマに掲げた。

(3) 職員の労災事故防止、メンタルヘルスとハラスメント対策の向上

毎月第一木曜日に精神科医によるメンタルヘルスに係る相談室を開催した。また、ハラスメントに係る相談責任者により当事者からの事情聴取とその後の仲裁等問題解決を実施した。

(4) IT・情報管理対策の向上

本部職員からのLANインフォメーションを活用したアップデート情報などにより端末サイドの対策強化を図った。また、IT資産管理ソフトにより、各施設の端末管理や外部媒体のアクセス拒否等を実施した。

4-4 公益的活動

—地域から必要とされる社会貢献活動を推進する—

(1) 医療・福祉専門職の施設派遣や他法人等への人的支援・協力

各機関、団体等の依頼に応じて医療・福祉専門職を派遣し地域全体のサービスの質向上を図るための人的支援・協力を行った。

詳細は別紙3「令和元年度外部機関・委員会等役職受託状況」参照

(2) 地域活性化への取り組み等公益的な取り組み

Madokaとして、「あさひ子ども食堂」の取組を継続するとともに各種イベントを企画し盛況であった。また、佐原駅前クラブもボランティアの協力により毎週一回開催した。詳細は法人本部の事業概要「Madokaプロジェクト」に記載。

近隣の社会福祉法人、NPO法人、市民団体、スポーツ団体等が実施する非営利事業に関連施設を無償提供した。また、地域の野中区の活動における人的、経済的協力を行った。

(3) 障害者週間行事による地域啓発活動

障害者週間に本会主催の講演会、福祉作文コンクール、ボランティア感謝式を企画し、職員および地域の福祉関係者等に研修機会を提供することにより地域の福祉サービス向に寄与した。詳細は「2 地域との連携（交流） 2-5」参照

5 1年のあゆみ

- 31. 4. 1 入社式・辞令交付式（新採用10名、他34名）
人事考課
- 5. 1 新元号「令和」
7 辞令交付
13 第三者委員・定期報告
28 監事監査
30 第222回理事会
- 6. 4 I L B S 国際福祉協会寄附目録贈呈式
7 夢まるファンド寄贈式、創立記念バレーボール大会
13 第62回評議委員会
15 後援会役員会、第15回安全運転講習会
第30回ロザリオ福祉まつり第1回実行委員会
23 東総療育を考える会
25 働き方改革説明会
26 会計監査人報告会
27 人事考課制度研修会
- 7. 1 辞令交付
3 地元説明会
8 福祉・介護職員処遇改善加算研修会
24 第224回理事会
25 人事考課制度研修会
26 千葉県女性サポートセンター視察、職員夏祭り
- 8. 1 辞令交付、職場説明会
5 辞令交付
8 千葉県障害福祉事業課視察
17 ロザリオ福祉まつり第2回実行委員会
22 人事考課制度研修会
28 福祉・介護職員処遇改善加算研修会
- 9. 4 合同防災訓練
7 ロザリオ福祉まつり第3回実行委員会・家族会交流会
9 台風15号、対策本部設置し対応
14 P B X 切替工事
25 第225回理事会
18 第30回ロザリオ福祉まつり臨時実行委員会
26 第四回人事考課制度研修会
29 第30回ロザリオ福祉まつり
※台風の影響により中止、利用者お楽しみ会開催
- 10. 1 辞令交付
2 創立記念日行事（67周年）
10 法人説明会・見学会
12～台風19号対応（停電等）

- 2 1 台風 2 1 号対応
- 1 1. 1 辞令交付
 - 7～8 千葉県指導監査
 - 1 4 千葉県社会福祉大会
 - 2 0 第 2 2 6 回理事会
 - 2 3 旭市社会福祉大会
 - 2 3～2 6 ローマ教皇来日
 - 2 6 旭警察友の会 地域の安全を支える集い
 - 2 7 第 6 0 回評議員会
- 1 2. 2 辞令交付
 - 7 障害者週間行事 (ボランティア感謝式、福祉作文コンクール、講演会)
 - 1 0 外国人介護人材確保研修会
 - 1 3 公正採用人権啓発推進員研修会
 - 2 0 法人説明会・見学会
- 2. 1. 6 新年挨拶会
 - 2 2 第 2 2 7 回理事会
- 2. 1 3 障害者雇用納付金制度説明会
 - 1 4 職場説明・見学会
- 3. 2 辞令交付
 - 7 合同研修発表会 (紙上)
 - 1 4 後援会役員会 (書面)
 - 1 8 第 2 2 8 回理事会
 - 2 3 決算事務研修 (WEB)
 - 2 5 第 6 1 回評議員